



瀬田の丘

創刊 1973 年

編集・発行／カトリック瀬田教会信徒会広報部
東京都世田谷区瀬田 4-16-1



今日のみことば

主の昇天 B 年 (2024 年 5 月 12 日)

瀬田教会主任司祭 小西広志神父

第一朗読：使徒言行録 1 章 1—11 節

第二朗読：エフェソの信徒への手紙 4 章 1—13 節

福音朗読：マルコによる福音書 16 章 15—20 節

「しるしによってはっきりとお示しになった」 (マコ 16 章 20 節)

今日の福音朗読は『マルコによる福音書』の終わりの箇所です。

まず、復活したイエスさまの命令が記されています。「全世界に行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えなさい」(15 節)。生前のイエスがなされたお弟子さんたちの派遣は、限定的なものでした(マコ 6 章 7—13 節参照)。しかし、復活したイエスさまの命令は「全世界に行って」、「すべての被造物に」とあるように、限定されません。生前のイエスさまの派遣を土台にして、今度は、父なる神さまがイエスさまを死者の中から立ち上がらせてくださった、すなわち復活させてくださったという事実を、お弟子さんたちは伝えなければならないのです。

16 節に「信じて洗礼を受ける者は救われるが」とあります。

イエスさまの福音を伝えるのは、それを「信じる」のか「信じない」のか、どちらかの決断を人に迫るものです。福音を伝えるために、お弟子さんたちは自分のすべてをかけて伝えます。力のこもった宣言です。それを受け取る人は、同じように、自分のすべてをかけて応答するのです。

そして、信じる人にはいくつかのしるしが伴います。

17 節では「悪霊を追い出し、新しい言葉を語る」。続く 18 節では「蛇を手でつかみ、毒を飲んでも死なず、病人をいやす」というしるしが伴うのです。

しるしは、何かを指し示すためにありますから、信じる人がこのようなしるしを行うのは、

その人に特別なパワーのようなものが身につくではありません。ましてや、その人が周りの人々から賞賛しょうさんされるためにしるしが伴うのでもありません。復活したイエスさまが信じる人と一緒にいてくださることを表すためのしるしなのです。

とくに「蛇、毒、病気」は、神さまと人を隔へだたらせるものです。ですから、「手で蛇をつかみ、毒を飲んでも決して害がいを受けず、病人に手を置けば治なおる」（18節）とは、信じる人が復活した主キリストとの親しい交わりの中に生きていることを表すのです。

そしてこの、主キリストとの交わりは、イエスさまが天に昇のぼられたとしても断ち切られることはありません。むしろ、主は、ともにおられるのです。その事実は、お弟子さんたちの言葉と生き方で明らかになります。

教会は、この世界に対して語りかけます。神さまの愛を語りかけます。教会は、この世に対して証あかしめます。すなわち、この世に対して証明せいいいします。神さまが、イエスさまを通じて聖霊の働きはたらのおかげで、ともにいてくださることを。教会はこの世界に向かって「しるし」となるのです。神などいない、救いなどない、愛が裏切られていると誰もが思っているこの世界に対して、愛とを説き、救いあらかを現し、神がともにいることを示すのです。それが教会の使命なのです。

お知らせ

マリア祭 5月26日 ミサ開始は午前10時半 グランドにて

- ・緑鮮やかなグラウンドで、野外ミサをしましょう。
- ・ミサ後にお弁当を楽しみましょう。当日はお弁当などの販売があります。